

## 芸術系大学院の受験について

李小江

2014年7月、大連芸術学院彫刻専攻を卒業し、10月に亜細亜友之会外語学院に入学しました。2015年7月日本語能力試験N2に合格し、10月国立東京学芸大学大学院に合格し、12月日本語能力試験N1に合格し、2016年2月東京芸術大学大学院に合格しました。

まず、簡単に日本の美術系大学を紹介させていただきます。東京芸術大学は日本唯一の総合的な芸術大学で、言うまでもなく競争が激しいです。そのほかに、国立筑波大学、東京学芸大学にも芸術系の研究科あります。公立大学の中には、京都市立芸術大学、愛知県立芸術大学、金沢美術工芸大学などもあります。私立大学のほうは、東京「五美」がよく知られています。「五美」とは、武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、東京女子美術大学、日本大学芸術研究科のことを指しています。私立大学のほうが留学生を多く受け入れていて、国立と比べると、入りやすいのですが、学費は年間180万位かかります。

次は、ポートフォリオの作成と研究計画書など受験の心得をお伝えいたします。

### 一、研究計画書とポートフォリオについて

きちんとしたポートフォリオは合格の必須条件だと思います。ポートフォリオには個人の履歴、作品の写真、作品のコンセプトが含まれます。芸術系の研究計画書は大体500字~1000字程度で、学部の時の創作内容と関連して、大学院でどんな理念で何を作り出したいのかを具体的に書く必要があります。研究計画書とセットに、創作の下書きの絵などを用意できたらもっと分かりやすく研究計画書を説明できると思います。文字だけで創作の理念などを書いても、教授に伝わらない可能性もあるので、創作の下書きの絵があれば、教授もコメントしやすいかもしれません。

### 二、必ず事前に教授と面談すること

一番簡単に教授に会えるのは、その学校の進学説明に参加することです。説明だけを聞いて資料を貰って帰るだけなら、あまり意味がないと思います。自分の履歴書、ポートフォリオと研究計画書を持参して、個人相談のコーナーで、教授に見せて、その場で意見を聞いて教授とコンタクトを取っておくべきです。ちなみに、私は東京藝術大学、東京学芸大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京造形大学の進学説明会に参加しました。また、希望する教授に直接メールを出して、先生とアポイントメントを取って、先生と面会することも可能です。

### 三、試験科目と面接について

美術系大学院の受験には、面接、小論文、デッサン、作品とポートフォリオの提出などの内容があります。面接試験が最も重要だと言われています。大学院で何について研究したいかという質問が良く聞かれます。作品の提出に関しては、留学生にとってやや不利だと思います。私の専攻は彫刻で、彫刻作品によっては1トンの重さの作品もあります。こんな大きな作品を日本に持って来られるわけがないので、どうしてもインパクトの足りない小さな作品を提出することが多いです。私の場合は、持ってこられた作品が1点だけで、もう一点は受験のために日本で作りました。

芸術系の学生として、この一年半の経験を皆さんに紹介させていただきました。主観的な意見も多いので、皆さんが参考程度で読んでいただけたら幸いです。